

講演会型(小学校)

学校名等	揖斐川町立清水小学校
実施日時	令和3年6月23日(水)~7月20日(火)
会場	各家庭(教職員は清水小学校)
参加人数	57世帯の各家庭 及び 教職員12名
学習課題(分野)	特別じゃない「特別支援教育」(思いやり・命の大切さ)
運営者の願い	本校に2年前に設置された特別支援学級(知的)における学習や活動の内容を知るとともに、通常学級の児童を含めた特別支援教育の在り方を理解することで、保護者が家庭教育へのアプローチの手法として認識し、各家庭において進んで実践できることを期待して行った。

学習の内容

<取組の経緯>

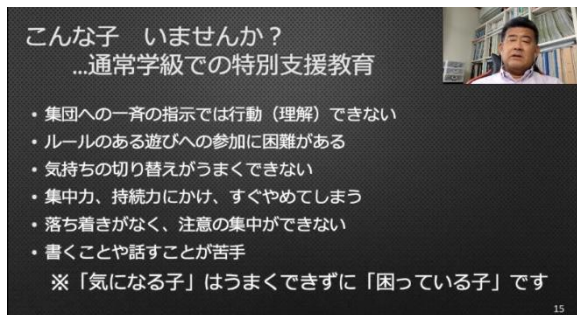
本PTAでは、毎年5月の授業参観の折に、会員が一堂に会し、家庭教育学級として講演会を実施してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演をDVD化し、会員は各自が自宅等で学ぶこととした。

<テーマ及び講師の選定>

「運営者の願い」にも記したように、特別支援教育に対する会員の関心が高いことから、『特別じゃない「特別支援教育」』をテーマに、揖斐特別支援学校の小川征利先生に講演をお願いした。

<短時間で全会員がDVD視聴できる工夫>

どの家庭でも視聴できるよう、PC用とDVDプレーヤー用の2種類のDVDを準備した。また、視聴し終わった会員が次の会員に回覧しやすいよう、通学班毎にDVDを準備することで、短時間で全世帯が視聴することができた。



【小川先生の講演DVD画面より】

<保護者の感想>

- ・ 特別支援学級の子だけでなく、みんなに必要なだと思えることがあったので、特別じゃない、困っている子が過ごしやすい、授業が受けやすい環境や支援を行うところが、特別支援教育だと、私は感じました。
- ・ 一人一人に合わせた対応が必要であることがよく分かりました。子どもに対する声掛けは、障がいのあるなしに限らず、とても大切だと思いました。しかも否定的ではなく肯定的な伝え方をしたいです。今後は、どんな言葉で伝えるのかを考えて生活したいです。
- ・ 世の中の多くの人は、みんなと同じようにできることを「普通」やそれ以上にできることを目指すべきこととして、子どもに求めてしまいがちだと思います。私も以前はそうでした。でも、それが優劣の基準になると、差別やいじめにつながっていくのではないのでしょうか。



ニーズに沿ったテーマ設定

家庭教育学級担当者の都合ではなく、実際にPTA会員の声を聞いた上で選定することで、多くの会員の確かな学びの場となりました。



コロナ禍の学びの在り方

講演会からDVD視聴としたことは、より多くの会員が、各自の都合に応じて、じっくりと学ぶ機会を確保することに繋がりました。今後はリモート形式の学びも検討したいです。



講師との願いの共有

講演の意図を講師の先生に熱心にお伝えすることで、DVD作成にご協力いただきました。「運営者の願い」の重要性を再確認できました。



感想の共有

感想を回収し、家庭教育担当者で共有することで、今回の講演が大変有意義であったことが分かるなど、家庭教育学級の評価に利用しました。また、感想の抜粋を講師の先生にお届けし、お礼の代わりとしました。